第７回世界青年意識調査結果（概要）のポイント

平成１６年１月
内閣府政策統括官（総合企画調整担当）付
青少年育成第１担当

●実施の概要

1　調査の目的

本調査は，我が国の青少年の意識の特徴及び現状を的確に把握し，今後の青少年に関する施策の樹立に資するとともに，諸外国の青少年との相互理解の促進に必要な基礎資料を得ることを目的としている。

なお，本調査は，第１回調査を昭和 47 年（1972 年）に実施して以来，５年ごとに実施しており，今回の調査は第７回である。

2　調査領域

①家庭関係　②学校関係　③職業関係　④友人関係　⑤地域社会・余暇関係
⑥国家・社会関係　⑦人生観関係　⑧その他

3　調査対象

(1)　調査対象国・標本回収数
日本（1,042 人）,アメリカ（1,010 人）,ドイツ（1,016 人）,
スウェーデン（1,026 人）,韓国（1,008 人）

(2)　調査対象者
調査の実施時点で，18 歳から 24 歳までの青少年（男女）

4　調査時期

平成 15 年２月～６月

5　調査の方法等

調査員による質問紙を用いた個別面接調査（各国 1,000 サンプル回収を原則）

●結果の概要

日本の青少年について、時系列及び諸外国との比較で見た特徴は以下のとおりである。

１　家庭関係

（１）家族の形態

■親との同居率(Q4)は、日本と韓国では７～８割、他３か国では３～４割である。(P.9)

（２）親子関係

■父親について(Q6)は、各国ともに「尊敬できる」「やさしい」が上位に入っている。その他、日本と韓国では「厳しい」、他３か国では「友だちのようである」が上位に入っている。(P.11)

■母親について(Q7)は、各国ともに「やさしい」「尊敬できる」が上位に入っている。その他、日本のみ、上位に「厳しい」が入っている。(P.12)

■年老いた親の扶養(Q9)については、「自分の生活力に応じて親を養う」が、スウェーデン（70.5%）、日本（64.8%）、韓国（56.5%）、ドイツ（53.4%）で高い。アメリカでは「どんなことをしてでも親を養う」（73.1%）が最も高い。(P.15)

２　学校関係

（１）学校に通う意義・満足度

■学校に通う意義(Q14)を聞いたところ、「友だちとの友情をはぐくむ」（61.5%）が日本のみ１位で、アメリカ、ドイツでは「一般的・基礎的知識を身につける」が、韓国では「学歴や資格を得る」が、スウェーデンでは「自分の才能を伸ばすこと」が１位に挙がっている。(P.23,24)

（２）学歴に対する評価

■社会で成功する要因(Q15)については、「個人の努力」（75.6%）が１位で変わらないが、最近２回の調査では「個人の才能」が「運やチャンス」を大きく上回っている。なお、「学歴」は１割にとどまり、諸外国と比較すると極めて低い。(P.26,27)

３　職業関係

（１）職場への帰属意識・満足度

■転職経験(Q21)については、学生を除いた有職者について前回調査と比べると、「１度も転職しなかった」（66.2→57.9%）が減少し、『転職経験有り』（32.8→40.1%）は増えている。日本とドイツは、「一度も転職しなかった」が５割を超えるが、アメリカとスウェーデンは約３割、韓国では４割である。(P.33,34)

■転職に対する考え方(Q24)については、前回調査と比べると、「職場に強い不満があれば、転職することもやむをえない」（45.7→53.0%）が増え、「不満がなくても、自分の才能を生かすためには、積極的に転職する方がよい」（22.0→14.2%）が減った。「積極的に転職する方がよい」は、スウェーデン（42.0%）が最も高く、次いで韓国（27.7%）、アメリカ（15.0%）、日本（14.2%）、ドイツ（11.1%）の順である。(P.36)

■職場生活の満足度(Q22)については、日本と韓国は、『満足・やや満足』が約７割であり、他３か国は８～９割である。(P.34,35)

（２）仕事に対する考え方

■仕事を選ぶ際に重視する点(Q23)については、１位が「仕事内容」（66.6%）、以下「収入」（64.9%）、「労働時間」（44.9%）、「職場の雰囲気」（44.3%）、「通勤の便」（38.1%）である。韓国、アメリカ、ドイツでは「収入」が、スウェーデンでは「職場の雰囲気」が１位に挙がっている。(P.37,38)

4　友人関係・地域社会・余暇関係

（１）友人

■友人を得たきっかけ(Q27)については、各国とも１位は「学校で」である。また、「インターネットで」は、スウェーデン（12.3%）が１位で、日本（1.6%）は最下位である。(P.41,42)

（２）地域社会

■今住んでいる地域（市町村）の愛着度(Q29)については、『好き・まあ好き』が、前回調査まで増加傾向にあったが、今回は横ばい（85.1%）である。(P.44,45)

■『好き・まあ好き』と答えた人の理由(Q30)としては、「友だちがいる」（57.7%）が１位で、以下「愛着がある」（54.3%）、「通学、通勤、買い物など生活が便利である」（39.8%）、「自然環境に恵まれている」（35.1%）、「治安がよい」（25.8%）の順である。「友だちがいる」、「愛着がある」、「通学、通勤、買い物など生活が便利である」は各国で上位に入っているが、「治安がよい」が上位に入っているのは、アメリカと日本である。(P.45,46)

■地域への永住意識(Q31)については、「住んでいたい」ではドイツ（56.2%）が１位で、以下、アメリカ（42.2%）、スウェーデン（40.8%）、韓国（37.3%）、日本（33.2%）である。(p.46,47)

（３）余暇

■休日の過ごし方(Q32)については、各国とも「友人と共に過ごす」が１位であり、韓国が「パソコンやインターネットを利用」、アメリカが「家族と共に過ごす」が上位に入っている。

（４）ボランティア

■活動経験の有無(Q33)については、前回調査と比べると「以前、したことがある」（22.2→31.7%）が増え、「全くしたことがない」（74.7→63.2%）が減っている。「現在、活動している」では、アメリカ（21.0%）が最も高く、以下、スウェーデン（19.9%）、韓国（5.0%）、ドイツ（8.2%）、日本（3.3%）の順である。(P.50,51)

■活動に対する興味(Q34)については、約４割が活動に興味を持っており、その興味の理由(Q35)は、「困っている人の手助けをしたい」（61.3%）が最も高く、以下「いろいろな人と出会いたい」（53.0%）などである。(P.51～53)

5　国家・社会関係

（１）国に対する意識

■自国で誇れるもの(Q36)については、１位が「歴史や文化遺産」（50.0%）、以下「文化や芸術」（31.7%）、「治安のよさ」（28.9%）の順である。前回調査と比べると、「治安のよさ」（34.9→28.9%）は減少している。(P.54,55)

■自国と自分との関係(Q37)については、「自国人としての誇りをもっている」では、７割以上が「はい」（77.1→72.6%）と答えているが、前回調査と比べると減っている。「はい」は、アメリカ（90.7%）、スウェーデン（85.1%）、韓国（79.6%）、日本（72.6%）、ドイツ（49.7%）の順である。また、「自国のために役立つことをしたい」では、韓国（73.3%）、スウェーデン（69.6%）、アメリカ（63.1%）、日本（50.0%）、ドイツ（29.5%）の順である。(P.56,57)

■政治に対する関心度(Q38)については、前回調査と比べると『非常に関心がある・まあ関心がある』（37.2→46.7%）は増えている。『非常に関心がある・まあ関心がある』はアメリカ（69.2%）で最も高く、以下、韓国（53.3%）、日本（46.7%）、ドイツ（45.4%）、スウェーデン（43.6%）の順である。(P.58)

（２）社会観

■社会への満足度(Q39)については、『満足・やや満足』はアメリカ（76.5%）、スウェーデン（75.3%）で高く、日本を含む他３か国は約３割である。(P.60,61)

■自国社会の問題点(Q40)については、前回調査と比べると「就職が難しく、失業も多い」（40.3→64.6%）が増え、「学歴によって収入や仕事に格差がある」（52.2→40.7%）、「環境破壊に対して国民が無関心である」（42.9→31.7%）などが減っている。日本とドイツでは、「就職が難しく、失業も多い」が最も高く、韓国は「学歴によって収入や仕事に格差がある」、アメリカ、スウェーデンは「人種によって差別がある」が１位である。(P.62,63)

（３）日本について

■日本人についてのイメージ(Q41a)では、日本では、「勤勉」が最も高く、以下、「見栄っぱり」「礼儀正しい」の順であるが、１位の「勤勉」（60.0→46.1%）は前回より大きく減少している。(p.59)また、各国の日本人についてのイメージ(Q41b)では、「勤勉」「礼儀正しい」を上位にあげている。日本人自身は上位にあげていないが諸外国で上位に入った項目は、「実際的」「進歩的」である。(P.64)

■日本についてのイメージ(Q42)では、日本では前回調査と比べると、「経済的に豊かである」（42.3→27.4%）が減り、「発展途上国への援助に積極的に取り組んでいる」（15.5→23.8%）が増えた。各国の日本についてのイメージでは、「経済的に豊かである」は、ドイツを除く３か国で前回より減少しており、「すぐれた文化・芸術がある」は、諸外国とも増加している。(P.65)

6　人生観関係

（１）生き方について

■自分らしさを貫くことが大切だと思うか(Q46)きいたところ、「そう思う」はアメリカ（97.7%）が１位で、以下、韓国（93.8%）、ドイツ（93.1%）、日本（80.3%）、スウェー

デン（71.6%）の順である。(P.67,68)

■自分がわからなくなることがあるか(Q47)きいたところ、「ある」は韓国（78.6%）が１位で、以下、日本（50.6%)、スウェーデン（42.0%)、アメリカ（34.4%)、ドイツ（25.5%）の順である。(P.68,69)

（２）悩みや心配ごと

■現在の悩みや心配ごと(Q50)については、「就職のこと」（33.9%）が最も多く、以下「お金のこと」(31.0%)、「仕事のこと」(27.4%)、「健康のこと」(13.9%)、「勉強のこと」(13.0%）の順である。第５回以降「就職のこと」のポイントと順位が上がっている。(P.74,75)

（３）男女関係

■男女の役割観について、「男は外で働き、女は家庭を守る」(Q52a)という意見については、「反対」（68.5%）は一貫して増加傾向にあり、「賛成」（16.1%）はおおむね減少傾向にある。(P.78,79)

■「子どもの世話をするのは母親」(Q52b)という意見については、「賛成する」は約２割、「反対する」は約６割である。スウェーデン、日本、アメリカでは「反対する」が５割以上であり、その中でもスウェーデン（85.3%）が最も高い。(P.78,79)

■結婚観(Q53)については,『積極派』が韓国, 日本で７割を超えており,『消極派』がスウェーデンとドイツでは、過半数である。(P.80,81)

7　その他

（１）自然環境保護意識

■「環境に配慮した製品が製造された結果、商品の価格が高くなっても買う」(Q43a)については, 日本とドイツでは「はい」と「いいえ」がほぼ同数であり、他３か国では「はい」が「いいえ」を上回る。(P.83,84)

■「環境を守るために、今より税金が高くなっても仕方ない」(Q43b)については、日本とドイツでは「いいえ」が「はい」を上回り、他３か国では、「はい」が「いいえ」を上回る。(P.83,84)

■「生活が不便になっても、環境に悪影響を及ぼすようなものは使わない」(Q43c)については、各国とも「はい」が「いいえ」を上回り、韓国とアメリカでは「はい」が半数以上である。(P.83,84)

（２）情報機器

■携帯電話利用の影響(Q44)については、「メールを頻繁に使っている」(57.7%)が最も高く、以下「今までの友だち関係が密になった」(42.9%)、「携帯電話がない生活は考えられない」（40.9%)、「付き合いの範囲が広がった」（37.1%)、「家族が安心する」（33.4%）の順である。スウェーデンと韓国では「しばれられると感じることがある」が上位に入っている。また、「携帯電話を持っていない」はアメリカ（27.6%）で高いが、日本を含む他４か国では１割未満である。(P.85,86)